

2017年7月31日掲載

歯周病

臓器の免疫障害にも

歯周病のかかりやすさとは何によるものでしょうか。遺伝的、あるいは口の中のケアの方法でしょうか。

私たちの体は、血管や細胞に関わる防御のメカニズムによって、歯周病菌の感染から守られています。

歯周病菌は、いろいろな菌が塊となっている構造体の中に、そのほかの体に良い菌なども共生し、混じり合って存在しています。菌が一時的に増えても、血管中のT-リンパ球が殺菌し、周りの細胞から集まったマクロファージ（白血球の一種）が、食作用（細胞が菌やその他の固形物を取り込む作用）を発揮します。

丈夫な歯ぐきを受け継ぐ遺伝子は、細胞の核にある染色体上に規則正しく並んでおり、常に歯周環境に適した情報を取り込んで、元通り修復するよう働きます。この本来備わっているはずの体の仕組みにより、悪い菌をたたいて、できるだけ良い菌を増やすようにして感染を防いでいるのです。

しかし、歯周組織に悪影響を及ぼす物質にさらされ続けると、遺伝子の組み換えや他の遺伝子を傷つけたりすることもあります。

みがき残し、不衛生な^{こうくう}口腔環境、栄養不良、運動不足などが常態化すると、免疫応答（生体反応の一種）に変化が生じ、炎症は慢性化してしまいます。さらに、炎症巣の感染菌により、あらゆる臓器に免疫的障害を引き起こすことも考えられます。

口の中の衛生状態を良好にして歯と歯ぐきを健康に保つことで、免疫力を活発にし、慢性的な炎症をなくしておくことが大切です。